

Magic xpi 3.4 on Windows Server 2012 動作確認レポート

マジックソフトウェア・ジャパン株式会社
ソリューション本部 プロフェッショナルサービス部
2012年12月3日

■ はじめに

このドキュメントは、Magic xpi 3.4 による Windows Server 2012 の動作確認テストの結果について記述したものです。

■ 対 象

OS バージョン:

- Windows Server 2012 Standard Edition

Magic xpi 製品バージョン:

- Magic xpi 3.4

DBMS などの周辺ソフトウェア:

- Microsoft SQL Server 2012 Standard Edition (64-bit) / Microsoft SQL Server 2012 Express Edition (64-bit)

■ 検証結果

Windows Server 2012 上での Office 連携は、下記留意事項に示す条件下で動作します。その他の機能は他の OS 上での動作と相違ありません。

■ 留意事項

- インストール前に IIS の以下の機能をあらかじめ有効化しておく必要があります。

管理ツール

- IIS 管理コンソール
- IIS6 管理互換

Web サービス

- HTTP 基本機能

- 規定のドキュメント
 - 静的コンテンツ
 - アプリケーション開発
 - .NET 拡張性
 - ASP .NET
 - CGI
 - ISAPI フィルター
 - ISAPI 拡張
 - セキュリティ
 - 要求フィルター
- Magic xpi 3.4 は 32bit 製品となりますので、64bit OS 上では WOW64 上で動作します。WOW64 に関する一般的な制限事項が適用される場合がありますので、詳細は以下の URL を参照してください。
- <http://support.microsoft.com/kb/896456/ja>
- HTTP/Web Services コンポーネントを利用する場合の留意事項
以下の設定をする必要があります。
- 「IIS マネージャ/サーバホーム/アプリケーションプール/DefaultAppPool/詳細設定/32 ビットアプリケーションの有効化」を True に設定する。
 - 「IIS マネージャ/サーバホーム/ISAPI および CGI の制限」のリストに mgrqispi.dll を登録し、あわせて「拡張パスの実行を許可する」をチェックする。
 - 「IIS マネージャ/サーバホーム/サイト/Default Web Site/Magicxpi34/ハンドラーマッピング」で「ISAPI-dll」に対する「機能のアクセス許可の編集」で実行を有効にする。
- Microsoft Excel/Microsoft Word コンポーネントを利用する場合の留意事項
WindowsServer2008、Windows Vista 以降の OS において、セキュリティ対策の一環として、セッション 0 の分離の対応がなされています。

<http://msdn.microsoft.com/ja-jp/windows/dd871151.aspx>

<http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/aa480152.aspx#EGFAE>

Windows 8、Windows Server 2012 では、更に対応が強化されました。Magic xpi サーバを Magic xpi Service 経由 (Windows のサービス) で起動した場合、Microsoft Excel コンポーネント、および Microsoft Word コンポーネントは正しく動作しません。

Microsoft Excel、Word コンポーネントで Office 連携処理を行う場合は、Magic xpi Service を使用せず、MRB(Magic Request Broker)を直接起動して Magic xpi サーバを

起動していただく必要があります。

MRB の存在するフォルダ、およびファイル名は以下の通りです。

- フォルダ : Magic xpi インストールフォルダ
- ファイル名 : uniRQBroker.exe

- Magic jBOLT Integration Suite V3.2、Magic jBOLT Integration Suite V3.0 および Magic jBOLT Expedition について

動作確認を実施する予定はございません。